

ほほえみ

第

255 号

令和2年

1. 1

発行

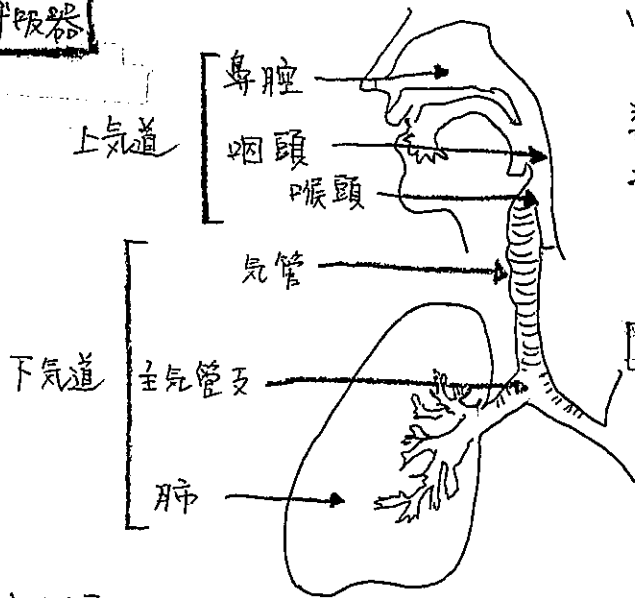


今回のテーマは「気管支炎」です。



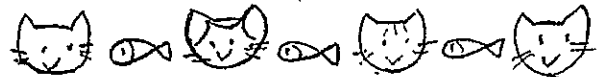
気管支炎とは、下気道(気管、気管支)に炎症を起す病気の総称です。

呼吸器



いわゆる「かぜ」が上気道(鼻・咽喉頭)に感染し炎症を起す病気の総称であることに対して用いられます。数日から数週間まで治療する急性気管支炎と3か月以上症状が続く慢性(遷延性)気管支炎に分けられます。さらに、気管支の末梢である細気管支という部分に炎症を起す病態を細気管支炎といいます。

[原因] ウイルス、細菌などによる感染症、アレルギー、喫煙・大気汚染・化学物質などがあります。原因により治療方針が異なりますが、細菌による気管支炎には抗生物質を使用します。



[症状]

感染症が原因となる気管支炎の症状には発熱、咳、痰です。全身倦怠感、食欲不振、胸の痛みが起ることもあります。小児の場合には「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という音が聞えることがあります。(喘鳴)。このような状態を喘息様気管支炎といいます。慢性気管支炎とは、咳、過剰な痰が長期間続きます。慢性気管支炎は、これらの症状が少なくとも2年以上にわたり、毎日または少なくとも連続して3か月以上続く状態です。

[診断]

主にせき、たんといった臨床症状から診断します。発熱を伴うことも多いですが、一般には身体所見に乏しく、軽症が多いです。しかし、発熱などの自覚症状が長引く場合には、肺炎との合併を鑑別する必要があります。ため、胸部エックス線画像もしくは胸部CTで影の出現がないことを確認する必要があります。細菌による二次感染を伴うとたんの量が増加し、性状も膿性となってきます。

[治療]

1. 対症療法

原因菌の多くはウイルスであることから、抗ウイルス剤を除いて病原体に特異的な治療薬はありません。そのため安静、水分栄養補給などの対症療法が中心になります。

2. 細菌感染が疑われる場合

適宜、抗菌薬を使用します。

[生活上の注意]

かぜ症候群と同様に普段から感染予防をすることが大切です。マスク着用や手洗い、うがい、咳エチケットを励行してください。